



復刊第103号  
題字 吉岡 弥生

### 会長挨拶



会長 山崎 倫子

梅雨明けとともにむし暑い夏の到来となりました。皆様にはますますご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

去る五月二十六日、多数の会員ご出席のもとに定例総会も無事終了いたしました。このたびの役員改選により、十八年の長きにわたって日本女医会を輝かしい発展にお導きくださいました三神美和先生のとを引き続き、会長に就任させていただくことになりました。今はただその任の重さをひしひしと感じている次第でございます。

ふり返ってみますと、何と云ういろいろな出来事があったことでしょうか。眼を閉じればさまざまな思い出が走馬灯のように瞬をよぎります。三神会長をはじめ、役員、そして皆様とともに、苦しみ、努め、時に

は激しい討論もしましたが、女医会員ならではの楽しみ、喜びも味わい過ぎた年月でした。すべての人が女医会の発展を願う中でのさまざまな紆余曲折の歴史を経て今日があるのでございます。執行部の中にあつて私自身社団法人としての自覚と責任、社会環境、医療状況等の変革の中で女医会のあり方、そして女医会存在の意義についてもずいぶん考えてまいりました。

素晴しい指導力と統率力で私どもを牽引して下さいました前会長にはとうてい及ぶべくもありませんが、偏らず、迷わず、お一人お一人の意見を尊重して明るい女医会にしてゆきたいと願っております。微力ではありますが、女医の社会的地位向上にも努力いたす覚悟でございます。新年度の事業計画の一つとして総会でご承認いただきました、日本女医の実態調査でございます。第一回女医の実態調査の目的として、日本女医会は昭和五十年に国際婦人年を迎え、昭和五十一年わが国において国際女医会第十五回国際会議が開催される機会に、その記念事業として日本女医の現状を把握することを企画したと記録されております。当時委員長として、また委員としてご苦労下さった柳瀬路子先生も湯本アサ先生も今はもういらつしやりません。感無量でございます。

会長挨拶	山崎 倫子 (1)
副会長就任挨拶	小俣喜久子 (2)
副会長就任	久保田くら (2)
副会長に就任して——女医のCTスキャンを	佐藤千代子 (3)
各部の抱負	
庶務部/野沢 良美 (3)	小出つる子 (6)
事業部/白橋 美笑 (4)	二村美美江 (6)
渉外部/佐野アヤ子 (4)	橋川ふさ子 (7)
新役員のごとは	
石津 澄子 (5)	南雲 君代 (6)
小暮美津子 (6)	藤井 儔子 (7)
野本 照子 (7)	
国際連絡書記をお引き受けして	
第三十回日本女医会定時総会開く	
総会挨拶	三神 美和 (8)
定時総会議事録	佐藤イクヨ (10)
総会の感想	
柳瀬路子先生を偲ぶ	三神 美和 (11)
弔辞	今野 信子 (11)
柳瀬路子先生を偲んで	柴田 洋子 (12)
柳瀬路子先生を偲んで	山崎 倫子 (12)
MWIAニュース(一九八五・一号)	
支部近況	
東京都支部連合会だより	宮川美智子 (13)
吉岡弥生賞推せんについて	
学術研究助成のご案内	
学術講演研修会のご案内	
会員の消息	
評議員会議事録	
理事会議事録	
会員動静	
編集後記	

において救急センターを一カ所受け持ち、診療業務に協力いたしております。かつての大阪における万博での診療無料奉仕に加えて、連合会としてのこの事業も女医学会の有意義な活躍の軌跡として残りますことと、会員の皆様とともにそのご苦勞に感謝いたしつづつ慶びたいと存じます。

女医の大学教授や立派な研究者の輩出、また行政機関での活躍などが望ましいことは申すまでもありませんが、会員の大半は臨床医であり、産業医、校医等もかねて地域医療に従事しているわけですから、とくに日本女医学会会員として、また女医として社会に貢献できることがたくさんあるのではないかとつねづね考えております。近年とくに問題となっている働く婦人の健康と福祉、結婚から子育て、思春期、タバコやアルコール、高齢社会、障害者の問題など、女医であるがゆえに、より効果をあげられることがあるように思います。

会員、グループ、あるいは支部単位で話し合い、企画し、協力し、その活動を連鎖的に広げてゆくことができたなら素晴らしいと思ったりしております。また社会教育、環境、福祉などの面でも現在個々の会員として積極的に活躍し社会からも認められていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいます。一層のご活躍をお願いいたしたく存じます。

私たちの仲間は素晴らしい人材がたくさんおられます。生涯学習を続

けてゆくにも、また余力をフィールドで發揮するにも力強い団体であると信じていますし、またそれが会員の心のよりどころになることと思えます。いやはやく行なうは難しいことは充分承知しております。それでも私はこのような夢というかわいジョンを持って少しづつでも前進してゆきたいと考えております。ぜひともご指導、ご協力、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

### 副会長就任ご挨拶



副会長 小俣喜久子

梅雨明けが待ちどおしい昨今でございます。会員の諸先生にはますますご機嫌ようお過ごしのことと存じ上げます。

去る五月二十六日、日本女医学会の三十回総会が三年ぶりに東京で開催されましたが改選期でもあり、先生方の多数のご出席をいただきましてお蔭さまで新しい役員が選出されました。まことにありがとうございました。

このたび、約二十年間を会長として卓越した成果をあげられた三神美和先生は会員の衆望にもかかわらず、

がわけていただきたく願っておりますし、学会などで出張の機会に理事がお伺いいたすこともできるのではないかと思えます。

本部と支部のコミュニケーション、ひいては会員と本部のコミュニケーションはもとより、支部間の交流も活発にと心から希望しております。コミュニケーションによって心が通じあうことからすべてが始まると思は信じております。

会員の皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 副会長就任



副会長 久保田くら

をお願い申し上げます。

日本の国はいよいよ高齢化社会に突入してまいりましたが、日本女医学会においても例外ではありません。幸いに医師は老齢になっても蓄積された経験と識見を生かして、より長く活躍できますことは皆様のご存知の通りでございます。そして実りある豊かな人生を歩いて来られた先輩の先生方によって今後の日本女医学会の重鎮となつて一層のご指導を賜わりたいものでございます。また若い

元気旺盛な先生方には一人でも多く入会していただき、日本女医学会の前進のためにますますのご活躍をお願い申し上げます。

新役員一同はこれからの日本女医学会に対し、意欲にみちみちております。

何卒、会員の諸先生の温かなご協力とご指導を心からお願ひ申し上げます。まして役員の一人士としてお礼とご挨拶を申し上げます。

会長の座を固辞されました。そしてこれからの日本女医学会は国外において大いに発展して行くために、日本女医学会の中でも特に海外に精通していらっしゃる山崎倫子氏を会長に推挙されたのであります。もちろん理事の互選によつて山崎先生は会長に選出されました。

三神先生の日本女医学会の将来に対する高邁な見識と一層の発展を信じ、私も新役員一同は新しい会長に大いに期待して、微力ながら一丸となつて協力してまいりたいと存じます。会員の諸先生にはますますのご支援

日本女医学会の総選挙がこのほどこなわれた。しかし、その名にふさわしくない者が副会長の中に一人いると本人が思うのであるから他人さまはより強くお感じと思われる。子供じやあるまいし、「いやだ」とごねるわけにはゆかないので抱負満々の山崎会長、役員諸公および全会員のご指導により努力の決心をしている。

私は永い間庶務を相つとめた。ただ大阪の万博の直後の一期を広報に属したことがある。このたびはからずも副会長になり、庶務と広報とおつきあいをすることになった。ただし各部の責任者が何事においても

任務をつかさどるわけで、私としては何かの折にお役にたち得れば幸いとし、できることならば出る幕がない方が望ましいと考えている。横着者の私は庶務に与えられた諸事の中で、三神会長のご意向をうかがったり、庶務の皆さんに相談したり、イ、トマなどまったく急を要するときは、結論を出すことをはばむ理由のある中で四苦八苦して出した答えであつても、後日に残るのは「答え」のみである。考慮の道程におけるさまざまな理由やいいわけは結論や答えに同行しない。敏くない人間の私はこのような折、三神会長に多分多

大のご配慮をいただいたと察する。役員は団体の代行であるから、全体をおもんばかるべきは当然であつて、利己主義や我田引水はいささか

### 副会長に就任して

女医学会のCTスキヤンを——



副会長 佐藤千代子

若いし(本当はいい年齢です)頑張りそうだから一度やらせてみよう……との皆様のご英慮と時代感覚で副会長に選出していただいた、と考へまして感激いたしました。それは、とりも直さず会員の方々の女医学会に対するご熱意に他ならないと感じたからでございます。

幸いすべてにご経歴も深く、学識見識ともに優れた先輩副会長がいらつしやいますので、強力に手綱を引いていただけますこと、安心して張り切りたいと思っております。山崎新会長は、私が女子医専に入

もゆるすべきではないと自覚し、緊張して今期をつとめたく、よろしくご指導ご叱正をお願い申し上げます次第である。

卓抜した指導能力とご識見、そして人間的魅力で長年私どもを牽引していただきました三神前会長への敬慕と尊敬もまた心に深く刻まれております。その会長のもとで六年間会計理事を担わせていただきました。会計は金銭の出納のみならず、貴重な会費をお預かりしている認識を基

底に、会の組織、運営すべてを把握することができてたいへん勉強になりました。さながら内視鏡になつて内面から眺めまわした感じです。今度、私の念願はます女医学会のCTスキヤンを施行したいことです。北海道から沖縄まで全会員いろいろのお考えをお持ちであると思ひます。全国CTで会員の方々の会に対するご希望、ご要望、そして活動に対するご提言など網羅して承り、その皆様の意向に基づいての運営を図りたいと存じます。女医学会に入っただけのことを目標に。

## 各部の抱負

### 庶務部

野沢 良美

本年五月二十六日、京王プラザホテルにおける第三十回定時総会にて、役員改選が行なわれ、新役員が誕生し、その後六月二十二日、第一回理事会が開催されました。その折、各部の役員および構成メンバーが決まりました。庶務部は南雲、二村の二名の新理事をまじえ、鶴川、明石、三好、野沢の六名で担当することになりました。

行政等)における会員の意見交流を行ない、一致団結日本女医学会の向上のため、少しでもお役に立ちたいものとねがっております。ある課題に対し、日本女医学会内部の意見の交換、意見の対立等百家争鳴はもとよりのぞましいことですが、いったん会として決定された事項は全員一致でこれを推し進めてこそ、日本女医学会の力を内外に誇示できるものと思ひます。そのためまず会員数の増加をねがって、今回はとくに会員係というものを設け、常任理事も一名増員し、三名で担当することにいたしました。

医療をとりまく社会情勢は、年々歳々厳しくなり、さらに医師過剰時代を迎えようとしている今日、女医の在り方も大きな問題となりつつあり、日本女医学会にとつてもたいへん重大な時であると思われまます。会員数の増加をはかることはもちろんのこと、内容の充実すなわち、それぞれの専門分野(臨床、研究、

どうか会員の皆様からのご指導、ご協力をおねがいし、一同「和」をもって頑張つてまいりたいと希つております。

### 会計部

福永ひろ子

社団法人日本女医学会のこのたびの役員改選に当たり、会員諸姉のご支援により、理事に選出され、第一回の理事会において、新体制のもとに、会計部を担当することに決ま

た。その責務の重大さに、身のひきしまる思いがいたします。申すまでもなく、当会の主たる財源は、会員の貴重な会費であり、その会費収入をもつて、会を運営して

ゆくためには、冗費をはぶき経常経費をできる限り節約してゆく事はもちろんですが、各部の事業に対して、有効適切な支出を基軸として、承認された収支予算を正しく執行してゆきたいと思ひます。

なお特別会計における研究助成、国際交流関係の支出は、当会の新しい事業として着々と成果をあげており、たいへんよろこばしい事であります。なお事務レベルにおける経理事務の整理、記帳等は有能なる当会の事務職員がその任に当たつてくださっているもので、すべてが円滑に処理されてゆくものと信頼しております。

前任の会計担当の諸先生のご努力により、相当の剰余金が見込まれて、会費値上げを行なわないうで今年度の予算を組んでいただきましたが、昨今の突如きわまりない内外経済状況の変動による諸物価の高騰は、とつてい予測する事ができません。もし不測の事態が生じた場合は、会員諸姉のご理解とご協力をお願いするところがあるやも知れず、その節はよろしくお願い申し上げます。

新体制下の会計部は、会計の大ベテラン、佐藤千代子副会長の下に、前任に引き続き丸山芙実常任理事、石川文子理事、稲生襄新理事、橋川ふさ子新理事と私福永ひろ子常任理事の構成メンバーで担当することとなりました。日本女医学会の大切なお金を預かる金庫番として、会員諸姉のご期待に

答えるべく、会計部一同一層努力して任期を全うしたいと決意を新たに

事業部

事業部を再び担任することになりました。本年は一つ一つを着実に実行してゆきたいと思いますが、評議員や会員の先生がたのご協力がなくてはできないことでありまして、よろしく願っています。

次に本年度の事業部の主な計画をあげます。

- 一、へき地診療への助成として六十万円。
二、公衆衛生ならびに社会福祉への助成三十万円。
三、支部助成、一件につき二百円。
四、年金。
五、ルーペンゲン。
六、荻野吟子賞 十万円。
七、日本女医実態調査 百五十万円。

右のうち、一、二、は各支部の評議員の先生方にご推薦いただきたいと思ひます。

三につきましては、滋賀、奈良、大分、広島、大阪八、沖縄の各支部が評議員の不在のため助成金の支払もできませんので、支部長の選出をお願いしたいと思ひております。部会でも検討いたします。

四の年金につきましては、国民総年金時代ともいわれる時代になり、

しております。

白橋 美笑

寿命ののびと平衡して年金は欠かさないもので、最近若い方たちに関心をもたれてきています。この際女医会の年金をおすすめいたします。

五のルーペンゲンにつきましては、三越の他、四方所に拡売をお願いし、また本部でも直接やっております。

六の荻野吟子賞につきましては、公許女医第一号の偉大な大先輩吟子先生の百年目を記念し毎年総会において一名授与されるものです。日本女医会のためまた医療をもって社会に貢献された先生方の中から選出されます。

七の女医の実態調査も十年目になり、その節目として女医の変動を再調査することになりました。これも会員の先生方のご協力がなくてはできないことであります。何卒よろしくお願いいたします。

何事をやるにしてもチームワークが大事だと思います。また本部と支部の連携も欠かせないことです。ご意見やご希望がありましたら、どしどし申し出ていただきたいと思います。私たちも地味な仕事ですが、一つ一つ誠実にやってゆきたいと思ひていきます。

学術部

橋本 葉子

過日の役員選挙で再び理事にさせていただきます。今期も学術部を担当させていただきますことになりましたので、どうぞよろしく願ひいたします。前期は学術部として従来と同じやりかたを引き継いでまいりましたが、基礎医学の面にも目をむけていただく機会を作りました。大部分の会員は臨床医学の分野で活躍しておりますので、年に一度くらいは基礎医学の最先端の知識に触れるのもよいのではないかと考えます。

今期も講演研修会にはできるだけ学術面で活躍しておられる方に講演をお願いしたいと考えております。また、今までは国際会議の情報もほとんどが国際連絡書記を通じてのものでしたが、各学会の国際会議の予定な

ども、順次お知らせすることにして、皆様方の情報交換の場を提供したいと考えております。とくに若い会員の国際会議参加を促進するために、日本女医会の助成を希望しております。吉岡弥生賞、研究助成金とともに、国際会議参加旅費助成も事業の一つとして、検討していただきたいと存じます。

この三年間にどれだけのことかできるか分かりませんが、学術部担当理事と会員の皆様方のご協力を基に進んでゆきたいと考えておりますので、皆様もどうぞご意見をお寄せください。そして、より良い日本女医会にしたいと存じます。

渉外部

佐野アヤ子

このたび、新しい渉外部として、佐野、平瀬、山本、野本、関口が担当することになりました。全員で、国内、国外の渉外にたずさわることになります。事業計画としては、これから相談して、予算のゆるす限り、何かしたいと考えています。さっそく、七月に出席いたしました

たNGO会議についてご報告いたします。一九八五年七月一日—NGO会議が参議院会館において開催された。労働省、少年婦人局長、赤松良子が、男女平等雇用法(五月二十四日批准)について解説され、来年四月一日施行に向けて実施法案の作成に努力し

ておられることが話された。今秋、十一月二十二日に催されるNGO日本大会に、総理府婦人問題企画推進本部長である中曾根総理をお呼びするか否か、タイトルを何にするかが討議された(野本出席)。

一九八五年七月四日—婦連会館において国連NGO国内婦人委員会において国連NGO国内婦人委員会の総会が開催され、一九八四年度、活動および会計報告、一九八五年活動方針、予算の件および第四十回国連総会に代表を送る件について審議された。

一九八五年七月十五日—二十六日—ケニヤ・ナイロビで、国連婦人の十年(一九七六—一九八五)の最終会議が開催されますのでナイロビ世界婦人会議政府代表団として、縫田暉子(政府代表)氏、山崎倫子(代表顧問)氏、久保田真苗(アドバイザー)氏が出席されるので歓送会が行なわれた(佐野出席)。

一九八五年七月十九日(十時四十五分—十六時十五分)—外務省国際会議場において国連NGO国内婦人委員をまねき国際交流活動を深めるために、外務省が「外交講座」において、国際政治情勢、国際経済問題、日本の経済技術協力等に関する講演の他、プロトコール等についての説明会を行なう(佐野出席)。

第一回渉外部会を七月九日、佐野宅で山本、平瀬、野本、佐野と四人出席のもとで行なった。

\*

広報部

八木 貞子

六月二十二日、今期第一回理事会が開かれました。初めてお目にかかる多数の先生方を迎えて「やるぞ」の意気込みもよろしく、全員勢揃いしました。

新会長山崎倫子先生の理の通った豊かな抱負と大きな夢を拝聴し、われわれも微力ながら新会長の下に大きな和をもって、日本女医学会のため全力投球と心に誓ったのは私のみ

ではないと存じます。

広報部のメンバーは前期に引き続き担当くださる井上柳子先生や、鶴風会の会誌編集に長くご経験の深い藤田親代先生、日本女医学会の躍進を叫んで筆まめに活躍される小出つる子先生、そして至誠会の会誌編集にご堪能な小暮美津子先生とまことに意気盛んな、そしてその道に卓越された先生方で構成されました。さら

に副会長久保田くらは先生は庶務と広報をご担当になり、何かとご指示を仰ぐことになりました。まことに広報部としては人材に申し分なく、去る六月二十八日、さっそく第一回広報部会を開き、久保田副会長を囲んで今後の活躍のあり方や、会誌第百二号の企画等検討して、実に迫力ある初会をもつことができました。

会誌としての役目と責任を充分果たし、会員諸先生の期待に沿うよう努力いたしたく存じおります。何卒皆様方の限りなきご協力を切にお願い申し上げます。

新役員のご挨拶

女医学会発展のために



石津 澄子

このたび、会員の皆様のご推挙により、理事を仰せつかり、事業部に配属させていただきました。

私は卒業以来、労働衛生の研究所で職業病を主とする調査や研究をつづけてまいりました。

東京女子医大の講座をお引きうけするようになってからは講義と実習が主となり、その間に、職業性中毒や職業がんの研究を行なっております。本年度、事業部の仕事として、日

本における女医の実態調査が実施されることになったようで、私もそのお手伝いをさせていただくことになりました。

しかし、何分にも不馴れであり、諸先輩のご指導のもとにポツポツ仕事をさせていただくつもりでございますので、よろしくお願いいたします。

今さらいうまでもないことではあります。日本女医学会は学閥にとら

われない、日本中の女医の先生方を会員とする大きな組織で、国際的にもその活動は高く評価されていると聞いております。

こういった過去の実績は会長をはじめとする多くの諸先輩のご努力によるものと思ひ、畏敬の念を禁じ得ません。

とかく、女性のみの集まりは感情的な対立や足の引っぱり合いが多く、まともにくいという古い批判は日本女医学会の運営と発展の実状をみるかぎり、該当しません。

私自身は未経験で不馴れのことばかりではあります。日本女医学会の発展に少しでもお役に立つことができれば、努力いたしたいと思ひます。

会員の諸先生方のご指導とご鞭撻をお願いする次第であります。

多数の方の関心を



稲生 襄

私が日本女医学会へ関心を持ったのは、昭和四十年五月、仙台での総会の時からです。以来各地での総会にはほとんど欠かさず出席、国際女医学会も東京大会の後には毎回参加、とてもすばらしい会と思っておりますので、できるだけ多数の方に関心をもつてほしいと願っております。

それには家族の理解と協力が必要です。早くからそのように方向づけるのが得策と思ひます。弥生先生のころから女医さんは外へほとんど出なければダメと叫ばれていたのですから、吹聴してよいはずで

私も神奈川県支部長を十年余やらせていただき、昨年は総会開催となりずいぶんいろいろのことを勉強させていただきました。よいPRにもなつたと思っております。このへんで一代若い方に支部長をお願いして身の程も顧みず、理事に立候補させていただきますが、多勢の方のご後援を得て初参加させていただきます。

六月二十二日最初の理事会に出席いたしました。多岐に渡るメンバー、なかなかムードのうちに二時間余を過ごさせていただきました。親類の

夕食会のあと、胸ふくらませて帰りました。

役員分担は広報を希望したのですが、都合上会計をやらせていただく事になりました。福永先生、丸山先生の他、副会長の佐藤千代子先生も加わっていただけるそう、ご指導をいただきながら、頑張るつもりです。

私は川崎市小児科医学会（会員二百余名）の会計を数年前二年間やらせていただき、たいへんな思いをしながらも、全会員を知ることができよかったという経験をもっております。

三年間会費滞納のため自然退会となるのもうっかりという事が多いのではないのでしょうか。出席できないからどうでもよい等と思われず、出席不能の方は年四回発行の会誌をお目通し下されば、だいたいの様子がわかります。

それぞれに多忙の中をやっているのですから、どうぞ皆様小マメに多方面にお気を向けて、幅広くご活躍いただきたいと念じ、ご挨拶とさせていただきます。

\*

### 会員が意義を持つ会に!



理事にさせていただいて、改めて日本女医学会というものについて考えを深くしております。

各理事方も、皆さん地元では一城の主として医業に専念しておられる方が多い。私もともに多忙な日々を過ごしているわけですが、そういう人々の集まりであり、また各会員方も意義ある会に入会し、時に総会その他にご出席になり、出席したことににより何らかのプラスを得て帰られたら満足感が残るのではないのでしょうか。その何らかのプラスとは、交流の喜び、旧友と逢った楽しさ、診療上役に立つ情報の交換、何でもいいと思っています。

新しく入会をすすめる場合、『会に入ると何らかのメリットがありますか?』とよく聞かれます。職を同じくする人々と話をするこ

### 新しく理事となつて



ブラジルで開催された国際女医学会に参加させていただき、諸先輩と

### 小出つる子

とは、たとえ一つでも教わり、かつ教え合い、各自診療または研究上の役に立つことも多いのですよ。と説明するのですが、なかなか一口ではいい切れません。難しい学問上の研究発表などは各地の大学で、卒後研習の会が常にありますからそれに出席するので手一杯という感じですが、女医学会で逢う方たちからは一味ちがつた日常診療些事での注意点を教えられることなどあつて、私はそれがメリットだと考えています。

それには各地各方面の方が日本女医学会員になっていただいで、お逢いした時気楽に話し合える!! そんな会になってこそと思っています。

S 大先輩の便りに、「数は力ですからね」と、進言をいただきました。これは大理想。ありがたいことです。

### 小暮美津子

親しくおつき合い願つて以来、何かと日本女医学会とはご縁があり、東京

### 身の引きしまる思い



での国際女医会議では、渉外部として、新聞作りを手伝わせていただいたり、外国からの会員のお世話をしたりして、今想い出すと、どれもこれも、過去に経験したどの学会や会議よりも印象が強く、感慨深く、女医が力を合わせれば、こんなに素晴らしい成果があがるということをもつて体験させていただきました。そのようなわけで、今回、三神美和前会長から立候補のお誘いを受け

た時は、非常に懐かしい思いで立候補させていただきます。新しく理事の一隅に加えていただき、新しく理事の一隅に残留することに、女性の社会的地位はまだまだ低く、女医が男医に伍して社会的にも学問的にも活躍するには何倍もの精進努力が必要とされています。そのためにも、もっともつと数多くの女医が結束し、力を合わせ助けあつて着実に実績を挙げて行かねばならないと思います。

### 南雲 君代

今回の役員改選で新しく理事の末席に加えていただきました。身の引きしまる思いがいたします。庶務担当という事になりましたが、はたしてお役に立てるのかどうか不安がつのるばかりですが、経験豊富な常任

理事の先生方のもとで、種々と勉強させていただきますながら、精一杯頑張るつもりでございますので、今後なにとぞよろしくご指導ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

### 丁稚奉公的心境



私は現在都内の港区六本木で皮膚科・泌尿器科を開業しています。支部では斉藤歌子支部長の下で予備評議員をつとめています。執行部

の新入りとして三年間、しっかりとゆっくり勉強して行きます。その意味で下働きと雑用が一番多そうなお仕事に加えていただいた次第

### 二村美美江

その一つ一つが立派なものであります。この業績を継承し、さらに発展させ、次の世代に正しく伝えて行くことが私達の使命であると思ひます。今期は広報を担当させていただきましたことになりました。若輩で未熟ではありますが、一生懸命努めさせていただきますが、一生懸命努めさせていただきますが、今後ともどうか諸先生方のご指導ご鞭撻のほどを賜わりたくお願い申し上げます。

です。

新しい土地に移住したり、立派な旧家に女中奉公に上がったという身辺の変化が起きた時、なかなか希望や抱負なんていう「理想的」思考は表面にはでて来ないし、まったくその所に一日も早くなじんで異物でなくなりたいとあせるものですが、今の私も女中奉公が変なら、丁稚奉公的心境です。

庶務は久保田から副会長が番頭さんですし、野沢良美、明石み代両常任理事が上手にシゴいて下さるようですから、安心? しています。

体が丈夫なこと、本部に近いこと、至らぬ所をカバーしようと思つています。何はともあれ、定められた会に欠席しないことを誓います。何はともあれ、会に遅刻しないことも誓います。

一城の主である(私も含めまして)三十八人衆の集団ですから、新入りといいたしましては、会の進行に邪魔にならず、無駄にならず、少

少しでも早く計上議題を良い方向に解決して行く一員の責を果たして行き

### 視野を拓げる機会に



野本 照子

いつになく梅雨が長びいておりませんが、皆様にはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

このたび、私は理事として佐野アヤ子先生および諸先輩のもとで渉外部を担当することになりました。ここで私の略歴を述べさせていただきます。

昭和二十六年に東京女子医専を卒業、インターンを経て薬理学教室助手となり、小山良修教授の指導の下で内分薬理学の研究および教育に従事してまいりまして、昭和四十四年に主任教授となり今日に至っております。この間、フランスへ二度

たいと思っております。

の留学の機会を得ました。

一方、学外において、至誠会理事、文部省審議会委員の席にあつてその責任を果たしてまいりました。このように、それぞれの場で会議に臨み発言する機会が多かつたという経験が、渉外部の活動に多少役に立つてあらうと思っておりますし、また、私自身の視野を拓げる良い機会になると考えております。

七月一日には、NGO国内婦人委員会に連絡委員として出席いたしました。国連婦人の十年の最終年、男女平等法批准の年ということである

### 吉岡弥生賞推せんについて

昭和六十一年吉岡弥生賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるよう、お願いいたします。

なお次の書類を添え、ご推せんをお願いいたします。

締め切り期日は本年末日までに願います。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員
- ロ 社会に貢献した現会員
- 三、推せん理由

れからがスタートであり、着実に歩むために四十八団体は何をすべきかが討議されました。

### 新理事に就任して



橋川ふさ子

ともあれ、これからの女性の社会

新しく理事に選出されました責任の重大さをひしひしと感じております。昨今でございます。私は名古屋女子医専の出身で名古屋に居住して

的地位の向上に、微力ながら尽力したいと思っております。皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。

ります。地方在住のまったくの新人でございます。このたびの選挙では、女医会の清新を図り、かつ地方会員の声を充分に反映する女医会にした

### 国際連絡書記をお引き受けして

藤井 儔子

今回、三神美和先生、山崎倫子先生方のお薦めで国際連絡書記の重任を、お引き受けすることになりました。

は、国際女医会の中での日本の比重も大きく、いい換えますと、参加している意義がなければならぬと考

日本での国際女医会会議が決定された印象的な時でした。それからの約十年は世界における日本の立場の飛躍的上昇、国際女医会東京会議の成功も、日本そのものの活力と無関係ではなかつたと思ひます。この数年

自分の専門分野での国際会議参加は比較的均質なメジャーに入り込むことですから気楽ともいえます。しかし、国情、考え、習慣等が途方もなく異なる国々の代表が多様なテーマにつき検討し、何らかの結論を導き出して実行しなければならぬ国際女医会事務局と日本女医会との橋わたしとなる国際連絡書記の役は、私にとり一からの勉強といえます。

あるいはワークショップの紹介等の他、今後、可能な場合は、その会合の成果を連絡しただいて紹介し、より具体的に世界各国の女医の視点や活動が分かりやすくできればと考えております。

必然的に国際的にも反映させうるものと夢をみていますが、レットルがついても個人の力だけで進められるものではありませぬ。皆様のご指導とはげましのほどお願い申し上げます。

日本女医会から千六百名分の国際女医会費を本部に送金していること

初回国際女医会への参加でしたが、の機構もよく知らない状態でしたが、

# 第二十回日本女医学会定時総会開く

## 総会挨拶

会長 二神 美和

日本列島の津々浦々からご出席くださいました会員の皆様とともに、本日再発足後の第三十回総会を開催できますことは、私のもっとも喜びとするところであります。ご多忙の中を多数の方々が出席くださいまして、まことにありがとうございました。本日は総会の議事進行の前に役員選挙が行なわれることになっておりますので、何卒、最後までよろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

さて昨年度の会務報告、および事業報告に関しては、各担当理事より報告がありますので、私が申し述べらるまでもありませんが、そのなかの主なことを取り上げて、ご説明を申し上げます。

国内的に行なわれたことの第一は、第二十九回総会を神奈川県支部が受け持たれ、横浜において盛大に開催されたことであります。支部長稲生先生はじめ、支部の皆様から心からお礼申し上げます。第二には、公許女医誕生百年の記念式を京王プラザホテルにおいてとり行なつたことを

あげねばなりません。その時、公許女医第一号女医荻野吟子女史を称えその名を後世に伝えるために荻野吟子女史を設立しました。また吟子女史出現当時の日本の社会情勢についての酒井シヅ先生の講演は、非常に感銘深いものでした。

百年前は公許女医は荻野吟子女史がたった一人でありました。百年経つた今日、日本の女医の数は一万七千人を越え全医師数の一〇%余に達したのであります。この女医が日本の各地において立派な活躍をしておりますが、その活躍ぶりを、北海道、東北、関東、中部、大阪、四国、中国の各地区の代表の会員からご報告をいただいたことは、この記念行事をいっそう意義深いものとして盛りあげたのであります。

今日のこの女医の発展の陰には、先人の血の滲むような努力のあとのあることを私どもは忘れてはならないと思ひます。吉岡弥生先生によって東京女医学校が設立され、女子の医育の道が再び開かれ、それにつづいて帝国女子医専、大阪高等女子医

専があいついで開校されるに及んで大正から昭和へと次々と多数の女医が誕生されました。さらに戦後の大学の開放と男女共学制度はこれに拍車をかけて今日の盛況を見るに至りました。今日男女平等が謳われ、議会において議決されましたが、しかし世間の眼は、また男性の意識は決してわれわれ女医に対し甘くはありません。実質的の男女平等はわれわれが本当の実力を持って相手に納得させるほかはないと思ひます。

第一回の荻野吟子女史は、戦後の日本女医学会再建に尽力された大村ひさゑ氏と川那部喜美子氏への授賞が決まり、お二人とも喜んで受賞されました。

第三に學術部の活躍を申し上げねばなりません。日進月歩の科学の世界にわれわれも遅れることのないようにと始められた研修会は、年ごとに実を結び、盛大となつてまいりました。五十九年度には十月二十七日に岡崎国立共同研究機構を見学し、その後、名鉄岡崎ホテルにおいて、その生理部門の江橋節郎教授の「カルシウムイオンと生命科学」というご講演を拝聴しました。頭の中に浸み通るような講演で、長いご研究の集積をわかりやすくお話いただいたことを心から感謝しつつ帰路についたことでした。

若い会員への研究助成制度もよう

## 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがつて、事務局あて申請下さるようお願い申し上げます。

### 一、助成の趣旨

医学分野の発展、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

### 二、助成金額

総額一五〇万円(五〜六件)

### 三、申込手続

#### (1) 応募資格

日本女医学会会員(新規加入者を含む)で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

#### (2) 助成期間

一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する。

#### (3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキで記入。  
正一通と副一通(コピー)を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

#### (4) 申込期間

昭和六十年十二月二十五日必着

#### (5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の上、昭和六十一年三月開催の日本女医学会理事會において決定し申請者宛通知する。

#### (6) 助成金の贈呈

昭和六十一年五月開催の日本女医学会総会の席上。

#### (7) 受賞者の本会に対する義務

昭和六十二年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

#### (8) 送り先 日本女医学会本部(〒150 東京都渋谷区渋谷一八七)

電話 〇三三四九八—〇五七二



やく軌道にのって、昨年も全国から十八件の応募があり、いずれも立派なご研究でした。

吉岡弥生賞はこのたびは社会に貢献した方に対し、二件が授与されることになりました。社会部門のみ四件の推薦がありました。年齢の多い方が授賞の対象になりましたことをご報告申し上げます。

国内的事業として、東京都支部連合会が、筑波の科学万博場内診療所の医療奉仕に参加していることを申し上げねばなりません。

日本女医学会本部も協賛の形でこれに参与しておりますが、東京都支部の方々が中心となって割り当てられた日を忠実に守り、順番に奉仕をつづけておりますが、本会がこうした国家的事業に参加し、自己の持てる能力を提供することは社団法人として当然のこととはいえ、その任に当たられる方々のご苦労はたいへんなものであります。心から感謝しております。

最後に渉外部の活動について一言申し上げます。国内的に婦人団体との交流は主に故柳瀬路子氏が引き受けられ積極的に活躍しておられました。また国外的には佐野アヤ子氏が担当されております。昨年夏にはカナダ、バンクーバーにおいて国際女医学会議第十九回が開かれ、本会からは七十余名の出席者があり、また演題二題を提出し、それぞれ講演されました。その総会において故柳瀬路子氏から、国際女医学会本部に一

万ドルの寄附申し込みがありまして、満場の拍手と賞讃を浴びたことは特筆に値するものであります。また佐野アヤ子氏は国際女医学会に対する長期にわたる功績が認められ、国際女医学会名誉会員に推薦されました。この二つのことは、日本女医学会にとつてまことに誇らしい事柄と存じます。

直接本会とは関係ありませんが、副会長山崎倫子氏は三度国連総会政府代表代理の一員に選ばれ、立派にその任務を果たされました。このことも女医の誇りであると考えるのであります。

以上が昨年度における日本女医会行事に対する私の感想であります。最後に一言付け加えたいと存じます。今後の日本女医会の在り方であり、本会にもつか会員数は、全女医数から見れば、決して多くはありませんが、何といつても明治三十五年発足以来の歴史ある日本女医

の中心的団体であります。その歴史をたどつてみれば、その時代時代に適合した活動をつづけて、女医の存在を明示しております。今後この女医の中枢的存在であることとを、全国の女医に理解していただき、会員を増やし、団結して、団体的活動を推進しなければなりません。あくまでも医者としての意識とを認識し、他方には婦人団体の一員であることを認識して、両方面的活動を つづければならないと思

います。内に向かつては自己の研鑽をつづ

定時総会議事録

け、外に対しては奉仕的精神をもつて行動することに心掛けたいと思ひます。本会が多数の会員を得て、日

日時 昭和60年5月26日(日)  
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿二丁目二一)

午後一時六分開会

司会 久保田くら

社団法人日本女医会総会開会に際し

会員数 二、七七七名

通知発送数 二、七六六名

出席数 二四〇名

出席委任数 六八八名

白紙委任数 三六九名

計1,297名

以上のとおり日本女医会定款第二

十七条の定足数に達し総会が、成立

する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 三神 美和

物故者への黙禱

昭和五十九年度会員物故者に慎んで黙禱。

定款第十五条の規定により現役員

任期満了にともない役員改選のため

選挙管理委員選出。

岸 よし、長池博子、青井禮子、

脇田昌子、清水五百子、中浜昌

子、野崎美千子、中西幸子、藤

田 禮

以上九名選挙管理委員に任命され、

選挙管理委員長に中浜昌子選出。

議場閉鎖

選挙人の氏名点呼を行ない投票用紙を配布す。

本における指導的婦人団体になりま

理事立候補届出者発表。

理事立候補者柳瀬路子は、五月二十三日死去されたため理事立候補者は三十七名となる(届出順)。

山崎倫子、小出つる子、佐藤千代子、石津澄子、小暮美津子、

石原幸子、平瀬文子、明石み代、

井上柳子、藤田親代、小俣喜久子、川口正子、久保田くら、佐

野アヤ子、白橋美笑、関口喜久、

南雲君代、二村英美江、野沢良美、野呂幸枝、橋川ふさ子、福

永ひろ子、藤井倚子、丸山美実、

三好美春、八木貞子、山本 杉、

石川文子、稻生 襄、大原一枝、

マッキンストリ千枝子、野本照子、橋本葉子、三神美和、鶴川

美登里、鈴木文子、野中久子。

監事立候補者名(四名)

森川みどり、添田百枝、西山喜代子、山口三重。

監事立候補者のうち森川みどりは、立候補を辞退されたため三名の定数となり定款施行規則第二十三条によつて添田百枝、西山喜代子、山口三重は無投票当選となる。

一、会務報告および事業報告 野沢 良美  
配布済みの資料にもつづいて報告あり。

二、昭和五十九年度特別会計報告 佐藤千代子

吉岡弥生賞基金会計

国際女医会議記念事業基金会計

年金会計

ルーパーンゲン会計

以上について配布済みの資料にもつづき報告あり。

三、国際連絡書記報告 山崎 倫子

議長団選出

今野信子、尾中妙子、高橋百合子

議事録署名人選出

桂 敦子、渡辺政子

議長団、議長席に着く。

第一号議案

一、昭和五十九年度一般会計収支決算

配布済みの資料にもつづいて説明あり。——原案どおり可決

二、剰余金処分案  
次期会計へ繰り越すことに原案どおり可決  
会計監査報告 山口 三重  
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第二号議案

昭和六十年事業計画案

庶務部 野沢 良美

学術部 藤井 倚子

事業部 白橋 美笑

渉外部 佐野アヤ子

議事録署名人選出

議長席に着く。

議長団、議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

議長席に着く。

広報部 井上 柳子

第三号議案

原案どおり可決

昭和六十年年度一般会計収支予算案

丸山 芙美

第四号議案

原案どおり可決

次期および次々期総会開催について

三神 美和

次期開催

東京都支部連合会

次々期開催

大阪支部

三神会長より日中医学協会への寄付金について国際女医学会記念事業基金口より支出する旨の報告あり。

承認

表彰

一、学術研究助成金授与者(六名)

後藤節子、近藤郁子、清水夏絵、高山澄子、原田景子、安田佳織

二、吉岡弥生賞受賞者(二名)

松山京子、若林静子

理事選挙開票結果発表

投票数二百三十五票、有効数二百三十票、無効数五票。

1位 山崎倫子 一二六票

2位 三神美和 一二六票

3位 小俣喜久子 一一〇票

4位 久保田くら一 〇四票

5位 橋本葉子 九三票

6位 佐藤千代子 八八票

8位 小暮美津子 八四票

9位 福永ひろ子 八一票

10位 藤井儔子 七六票

10位 佐野アヤ子 七六票

12位 野沢 良美 七〇票

13位 橋川ふさ子 六七票

14位 稲生 襄 六六票

14位 石津 澄子 六六票

16位 三好 美春 六四票

17位 石原 幸子 六三票

18位 平瀬 文子 六〇票

19位 明石 み代 五八票

20位 八木 貞子 五六票

21位 野本 照子 五五票

22位 二村美美江 五四票

23位 野中 久子 五〇票

24位 井上 柳子 四九票

25位 石川 文子 四七票

26位 大原 一枝 四六票

26位 鶴川美登里 四六票

28位 白橋 美笑 四五票

29位 関口 喜久 四三票

30位 山本 杉 四〇票

31位 丸山 芙美 三九票

32位 川口 正子 三八票

33位 野呂 幸枝 三一票

33位 南雲 君代 三一票

35位 藤田 親代 二九票

36位 鈴木 文子 一六票

37位 マッキンストリ千枝 九票

定款施行規則第五條のとおり上位得票順とし、1位から35位までを当選者とする。

定款施行規則第十五條にもとづき新理事の互選により会長、副会長および常任理事が選出される。

会長 山崎倫子

副会長 小俣喜久子、久保田くら、佐藤千代子

常任理事 明石み代、石原幸子、佐野アヤ子、白橋美笑、野沢良美、橋本葉子、平瀬文子、福永ひろ子、藤井儔子、丸山芙美、三好美春、八木貞子、石川文子、石津澄子、稲生 襄、井上柳子、鶴川美登里、大原一枝、川口正子、小出つる子、小暮美津子、関口喜久、南雲君代、二村美美江、野中久子、野本照子、野呂幸枝、橋川ふさ子、

総会の感想

東女医学内支部 佐藤イクヨ

昭和六十年五月二十六日、新宿の京王プラザホテル四階花の二室を横長に連ねた会場作りは広々として快適。二百四十名の会員で埋めつくされた。

司会は久保田理事、三神会長挨拶後、ただちに役員選挙に入る。投票は氏名記載でなく、立候補受け付け順の番号を記載し、コンピュータによる集計方式を採用された。この間に会の諸報告、議事がスムーズに運ばれた。やがて選挙結果報告があり、番号と氏名の組み合わせで表示された。立候補者はほとんど当選されたようであった。新理事会によつ

藤田親代、三神美和、山本 杉

監事 添田百枝、西山喜代子、山口三重

閉会の辞 福永ひろ子

午後六時一七分閉会

議事録が正確であることを証するため議長および議事録署名人の署名捺印をする。

昭和六十年五月二十六日

議長 今野信子

議事録署名人 桂 敦子

議事録署名人 渡辺政子

会長には大方の推測通り山崎倫子先生(東女医昭和十八年卒)が選出されたが、先生は最近三度国連で政府代表代理として活躍され、またこの七月にはナイロビでの国連の世界婦人会議にも出席される由で、力強い就任のご挨拶には万雷の拍手を浴びた。副会長には久保田くら理事、小俣喜久子理事、若手の佐藤千代子理事の三氏当選と発表あり、今後活発な活動が期待される。

過去十八年間におよび長い間の会長として、その間第十五回国際女医学会を本邦で開催など大きな業績を挙げられ、八十路を越えられた三神美和先生には、ほんとうにご苦労様でしたと感謝で一杯です。ご健康で本会を看守つてくださるよう祈念いたします。

会議を終わって扇の間に移り、懇親会が催され、和気藹々と打ちくつろいで祝杯を挙げ歓談、福永前副会長の閉会の辞にて、意義深い今日の総会を閉会。

会員数について

国際女医学会開催時の会員は五千人ほどの盛況であったのに、現在二千八百余とは心細い。退会者・自然退会が多くなり、新入会が少ない。以前は卒業と同時に入会できたが、近年国家試験合格後となり、本部から各大学宛に入会勧誘状は出している。各都道府県支部長やお知り合いの方に入会を勧誘していただきたい、数は力なりです。本会は社会面・学術面にも社団法人としての実を挙げており、国際女医学会議の際には海外旅行にも同行して見聞を広められるメリットのある会として会誌のほか、会費完納者には会員名簿を贈呈(送料は本人負担)する事は必須の事と考えます。

地方での総会挙行は大変な事と思えますが、会の力の伸展に大いに役立つ事と思えます。何もできない卒寿を迎えた私、老人の言葉と受け留めて下されば幸いです。日本女医学会のますますの発展を祈りつつ筆を擱きます。

日本女医学会常任理事  
日本女医学会東京都支部連合会副会長

### 柳瀬路子先生を偲ぶ



故 柳瀬路子先生

昭和六十年五月二十三日逝去

(享年七十歳)

### ■ 弔 辞

日本女医学会会長 二神 美和

社団法人日本女医学会常任理事柳瀬路子先生のご遺前に謹んで弔辞を捧げます。

柳瀬路子先生、つい先日までお元気だった先生に再びこの世でお目にかかれなくなったというのを私はとうてい信じることはできませんでした。五月二十三日午前十一時に先生のご永眠を知らされた時は自分の耳を疑いました。

これは何かの間違ひではないかと。しかしその夕方お家をお訪ねして、美しく化粧され眠っておられるようなお顔を拝見しました時、それは現実となつて私の胸に迫つてまいりました。あの活々と輝いたお目は閉ざさ

を卒業されました。私とは出身校も年代も違いますため、お若い頃のこととは存じ上げないのでありますが、日本女医学会に関係されるようになってから、仲間としてご交際を願つておりました。

先生は頭の回転の早い方でした。昭和三十九年、本会の理事となられたから、毎月お目にかかり、一緒に仕事をしておりました。昭和五十一年第十五回国際女医学会が東京で開催されました時、その準備の目的で全国の女医にアンケート用紙を送り、それをもとに日本の女医の詳しい実態を調査され、「日本の女医の実態調査」として纏められ、その一部を国際女医学会のテーマであった「地域医療における女医の役割」の演者として発表されました。

またつい最近まで渉外担当理事として、他の婦人団体との交流に当たられ、日本女医学会に多大の貢献をされました。また国際女医学会にはいつも出席され、とくに昨年八月カナダにおける第十九回国際女医学会の時、国際女医学会本部に一万ドルのご寄附をなされ、出席者に多大の感銘を与えました。このように先生は活動的であり、実行力のある方でした。先生は社会人としてのみならず、家庭婦人としても立派でした。ご夫君を助けて立派な病院を経営し、地域医療に貢献されました。とくに感動したのは、ご夫君が遠く西独の地で病に倒れ生死の境をさまよわれた時の対応のご様子であります。とにかく

ぶじに帰国にまでこぎつけられたそのご手腕と熱意は、ご夫君に対する愛情の深さを物語るものと思います。このような有能な先生を失うことは、私どもにとつて、痛恨極まりないものがあります。今後先生のご尽力を仰がねばならないことが多ありますので、本当に残念でございます。

しかしこれも定められた運命と思ふ。昭和六十年五月二十八日

### ■ 柳瀬路子先生を偲んで

日本女医学会東京都支部  
連合会会長

今野 信子

故柳瀬路子先生をしのび、つつしんで追悼の辞を申し上げます。

柳瀬先生は、昨年日本女医学会東京都支部連合会発足以来、副会長としてご協力、ご助言をいただき、連合会の大きな推進力であつたと思つた。先生のご逝去は、本会にとつて大きな星が消え去つた感じがいたします。

私は先年、日本女医学会の監事として理事会に出席しておりました。当時柳瀬先生は副会長として、渉外部の活動をされていらつしやいました。ある時先生がルーペンダンのコマージュには眼科医の説明がある方がより良いからと言ふことで私が柳瀬先生と同道し、スタジオ・アルタに夜出向きました。アルタの都合で遅い時間になり、先生と二人でうどんをいただきますが、女医会のこと、

家庭のことなど話しあい、くつろいだ時間をもつ事ができましたのは忘れることのできぬ先生とのよい思い出の一こまです。

昨年、連合会の第一回の総会において、つくば科学博医療事業に参加する事が決議され、以来、毎月開かれる定例役員会には、先生は、常に生き生きとして若々しく、美しいご容姿で、ご病気の影さえみえず、先生はご健康なのだ、隣席の私はいつも感心しておりました。そしてこの役員会には、お心くばりいただき、この会の雰囲気をもりあげていただきました。またつくば科学博の宿舎については先生を中心にしたれりつくせりの準備で、利用された方々からよろこばれ、先生のきめこまかいご心情がしのばれ、あらたな悲しみ

本年十一月二日に、連合会の総会がひらかれ、つづいてつくば医療のうちあげ会が予定されております。柳瀬先生は、この日をたのしみにしていらつしやいましたのに、ともによろこびあうことができぬのは、かえりみずも残念でなりません。先生とともに考え、そして行動したこのつくば博も、半ば以上経過しました。夏休みには、医師一名を増員し、応急処置所の医療に万全を期してまいります。

### 柳瀬路子先生を偲んで

品川支部 柴田 洋子

柳瀬路子先生には、昭和六十年五月二十三日、七十歳をもって偉大な生涯を閉じられました。私どもはご逝去を衷心よりお悼み申し上げます。

かえりみずれば、先生は昭和十二年に帝国女子医専を卒業後、ただちに母校の外科教室に入局され、爾来、卓抜した医師としての聖職を全うされました。その間、母校のみならず、東京大学大槻外科、同法医学教室等に学ばれたのち、慈恵医大法医学教室におきまして、昭和三十年医学博士の学位を受けておられます。先生は幅広い社会活動をしておられ、日本女医学会、鶴風会の重鎮として、とくに女医の地位向上に情熱をもって貢献されました。また昭和五

柳瀬先生、どうかおみまもりください。連合会は会員同志がより理解しあい、ますます結束をかためてまいるたいと存じます。また昭和六十年の日本女医学会総会をひきうけ、役員会においてもこの準備について、ほつぽつ検討がはじまっております。先生の積極的な前進姿勢を会のものとして、たくましく連合会を育ててゆきたい所存でございます。柳瀬先生、安らかに眠りください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

十七年には日本赤十字社より「有功章」を授与されましたことは特記すべきことと存じます。

故柳瀬武司先生とは昭和二十九年に結婚され、同時にご主人の開かれた江東区の柳瀬外科病院の診療にもたずさわって、ご家庭と医業の両面からご夫君の良き伴侶として歩んでこられました。お二人の睦まじいご様子は衆目的でございますが、はからずも昭和五十七年七月に武司先生がご他界され、長い間喪服姿で過ごされた路子先生のお悲しみは察するに余りあるものがありました。しかしながらそのような中で、医師として後輩の育成にも深いご配慮を持たれ、ご資産の一部を東邦大学医学部ならびに慈恵医大に寄贈されま

した。東邦大学医学部におきましては、路子先生のお志をくんで昭和五十八年に「柳瀬武司奨学基金」を設立いたしました。奇しくもご葬儀の五月二十八日は路子先生を交えて第

## MWIA ニュース 一九八五・一号

○国際女医会会長からのメッセージ  
会員の皆さんに新年のお祝いを申し上げます。一九八五年が平和な年になるよう、また、誰にとってもよりよい世界になるよう皆さんとともに祈りたいと思います。

誰でも、新年には何かの決意をするのが習慣です。私は会員の皆さんに、MWIAのコミュニケーションを向上することを決意してほしいのです。各国女医会、会員、グループ等の活動に関する情報を含む確かなコミュニケーションが非常に重要です。それはWHOとの現状を維持するためにも、また互いにMWIA事情に通じておくことのためにも必要なことです。

MWIAに何ができるか、何をなすべきか、会員の皆さんがどう考えているか、意見を出していただき、それを国際役員が把握することが会の機能を発展させるために非常に重要であります。それに関連して定款や細則が改訂されてゆくからです。

三回目の柳瀬奨学基金運営委員会が予定されておりましたが果たされなかったことは痛恨の限りでございます。しかしながら、柳瀬先生お二人のご遺志は永遠に生きつづけること

国際連絡書記 山崎 倫子

今がその改正意見を出す時なのです。情報の提供、アンケート等に対する応答が重要であることをここで強調したいと思っております。返答下さる皆さんには大変感謝してはいますが、残念なことにもいつも応答があるとは言えないのが現状です。本部からお願いをただ無視するのではなく、答えられない理由、不明確な点などがあれば、いついかなる場合も一応理由をつけて連絡されたい。

○ヤング・フォーラム

MWIAには、会員、連絡書記、地域副会長というコミュニケーション・チャンネルができています。しかし会員が直接国際役員、事務局長、委員長に書かれることも結構である。地域間、各国連絡書記間のコミュニケーションが増えることを切に希望する。地域における会合などについては他の地域にも案内し、報告するなど、いかなるものだろうか。

「コミュニケーションの改善のみがMWIAに利益をもたらす」  
の新年の決意をしっかりと考えてほしいと願っています。

「コミュニケーションの改善のみがMWIAに利益をもたらす」

「コミュニケーションの改善のみがMWIAに利益をもたらす」

「コミュニケーションの改善のみがMWIAに利益をもたらす」

「コミュニケーションの改善のみがMWIAに利益をもたらす」

「コミュニケーションの改善のみがMWIAに利益をもたらす」

をもっておなぐさめ申し上げたく存じます。最後に先生のご冥福をお祈り申し上げます。

スベリヤー  
Beverley Tamboline

一九八〇年、バーミンガムで発想、八二年、マニラで誕生、八四年、バンクーバーで育つ。ヤング・フォーラムとはいったい何のこと!!?

四十歳未満の若い女医がMWIA会議に際して集まり、自分たちが持つ諸問題を討議し、意見を交換し、国際的に共同研究し、どう解決してゆくかを計ろうとする場です。

MWIA会議に参加するには、旅費、宿泊費など多額の費用を要し、若い会員はわずかしが参加できない。一九八二年のMWIA会議において、各国を代表する若い女医がヤング・フォーラムに参加できるよう、主催国は登録費の軽減と安い宿泊の斡旋をするという新しい方針を決定した。また各国女医会も旅費の援助がなされるよう求められた。

ヤング・フォーラムは、一九八四

ヤング・フォーラムは、一九八四

ヤング・フォーラムは、一九八四

ヤング・フォーラムは、一九八四

支部近況

東京都支部連合会だより



千代田支部 宮川美智子

三月に開幕した筑波科学万博も、もう折り返し点を過ぎました。東京都支部連合会からは、毎日一名ずつ出務して応急手当所の医療に従事してまいりました。

この北ゲート近くの「プロムナード応急手当所」は、周りの人気パビリオンなどの位置的な関係もあって、患者が多く、たいへん忙しい毎日でございます。

七月、学校が夏休みに入れば、ますますの混雑が予想されますので、連合会からは、さらに助勤医が一名ずつ出務することになりました。これは、連合会役員および科学博特別委員が当たるもので、一人がだいたい二日出務することになり、割当日もすでに決定いたしました。

暑さに向かい、それぞれいっそう健康に留意して、後半を無事成し遂げられますよう、頑張りたいと思います。

本年十一月二日には、「東京プリンスホテル」において支部連合会の総会のあと、科学万博出務完了打ち上げパーティが催される予定になっております。当日先生方には、何卒ふるってご出席くださいませ。

また昭和六十一年の女医学会総会は、東京都支部連合会でお引き受けしまして、東京で開かれることになりました。

地方で開催の時には、いつもその地方の先生方に並々ならぬご苦労をおかけし、大変お世話様になりましたこと、つねづね感謝申し上げます。

来年は東京で、皆様によるこんでいただけますよう、有意義で、楽しい会にしたいと思っております。万博の時に示したみんなの協力の力の大きさを、ここでもう一度発揮したいものと願っております。

年八月のバンクーバー会議に際し、二十一カ国からの代表が四回の会合を持った。

就職予想、卒後研修、専門職地位の確保等につき話しあわれた。医療事情のまったく異なる国々であるにもかかわらず、若い女医の問題は驚くほど一致していた。卒後研修にしても、専門職としての働く場を得るに、女医は同僚の男医よりはるかに困難であり、加えて家庭責任と仕事を両立させる上の問題が明らかにされた。シェラ・リオネの子供病院の労働条件の悪化についての重要な問題も討議された。

これらの問題を将来調整するため、Dr. Shelly Ross, Canada が子供病院の援助の開発にかかわることになり、Dr. Karen Anderson, USA がヤング・フォーラムのワークショップ開催事業を受け持つことになった。ヤング・フォーラムが短期間において発展し、これに関する決議をMWIA総会が採決したことはすでに連絡した通りである。MWIAは今や活発な核となる若い女医たちが古い仲間と協力し、推進力となつて会の将来に希望をもたらしてくれるものと思う(ヤング・フォーラム委員長 Ute Otten による)。

会員消息——  
○初めて宇宙旅行をしたMWIAの会員  
アメリカ女医学会のメンバー Dr. Anne Fisher は初めて歴史的な宇宙往復発見飛行に参加し、宇宙をとんだ女医である。この旅行に彼女はアメリカ女医学会の記章を持っていった。彼女は二人の宇宙遊泳仲間が故障した二つの衛星をスペース・シャトルに操作し修理するための五十フィートもある巨大なリモコン・アームを取り扱った。彼女は、リモート・アームの先端につけられたテレビカメラを使いながら、衛星のドッキング操作を見守った。救急室の専門医であるドクター・フィッシャーは、無重力環境における質の高い結晶体の成長実験を監督した。彼女の宇宙の旅が引きつづき多くの女医によってなされることを希望する。

○中国への旅  
一九八四年六月 Jila Krosier と Anne Barlow の二人のアメリカ女医学会員は中国の病院見学旅行に参加し、北京、西安、上海で多くの女医にあつた。彼女らは女性の健康問題に関して講演したが、尊敬と友情をもって迎えられた。西側の規準からすると技術的には五、六十年も遅れているうえに記録の保持ははるかに劣っていた。訪れたどの地の女医も医学文献を非常に求めていたし、接触を非常に喜んだ。MWIAを代表して接した人たちを通して、近代技術が中国において盛んになることを期待する。

○国連関係  
日本女医学会 Dr. Rinko Yamazaki は一九八二、八三、八四年の国連総会に日本政府代表代理に任命され、人道、社会、文化問題——高齢者、障害者、婦人、青年、難民、麻薬、拷問の他人権にかかわる問題——を扱う第三委員会に出席した。  
また一九八五年三月、イラク婦人連盟の主権によるバグダッドにおける世界婦人大会に出席した。世界各国より三百人もの婦人が集まり国連婦人年に関する討議がなされた。前MWIA会長 Dr. Trinidad Gomez も参加した。

○ペンシルバニア大学からの名誉  
このたびペンシルバニア大学、産婦人科学教授で副学長 Prof. Helen Dickens の肖像画が大学に飾られることになった。式典後、彼女は医学部に飾られたはじめての黒人女性であることを記した(彼女はまたアメリカ外科医学会の初めての黒人特別会員でもあった)。  
Dr. Helen Dickens は、大学病院に年間二百人もの十代の妊婦を診療する Teen Clinic (十代のためのクリニック)を開設した。このクリニックは保育所を併置し、若者に妊娠と育児の教育を行なっている。十代の父親のためにカウンセリングも行なっている。  
(山崎 訳)

評議員会議事録

日時 昭和60年5月26日(日)
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿2-2-1)

午前10時20分開会

司会/明石 み代

社団法人日本女医学会評議員会開会に際し

評議員数 一一二名

出席数 六三名

記名委任数 一四名

白紙委任数 一一一名

合計88名

以上のとおり日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、評議員会が、成立する旨の報告あり、開会を宣す。
会長挨拶 三神 美和

会員の消息



\*稲田雪子(島根支部)

関西医大・昭和10年卒

昭和60年4月、永年にわたり僻地医療と地区の保健活動に尽力されたご功績に対し、勲五等宝冠章の榮譽を受けられました。

\*加藤笹子(福岡支部)

東邦医大・昭和22年卒

昭和60年4月、全国政令都市の中でも初めての女性局長として福岡市の衛生局長に就任されました。

報告

一、会務報告および事業報告

配布すみの資料にもとづいて報告あり。
三好 美春

二、昭和五十九年度特別会計報告

吉岡弥生賞基金会計 石川 文子

国際女医学会記念事業基金会計

年金会計

ルーペンダン会計

以上について配布すみの資料にもとづき報告あり。

議長選出

長池博子

議事録署名人選出

桂 敦子、中山年子

議事

第一号議案

一、昭和五十九年度一般会計収支決算

配布すみの資料にもとづいて説明あり

佐藤千代子

二、剰余金処分案

原案どおり可決

佐藤千代子

次期会計へ繰り越すことに原案どおり可決。

山口 三重

会計監査報告

監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第二号議案

昭和六十年年度事業計画案

庶務部 荒木 律子

学部部 橋本 葉子

事業部 石原 幸子

渉外部 鈴木 文子

広報部

井上 柳子

原案どおり可決

第三号議案

昭和六十年年度一般会計収支予算案

原案どおり可決

鶴川美登里

第四号議案

次期および次々期総会開催について

三神 美和

次期開催 東京都支部連合会

次々期開催 大阪支部

原案どおり可決

三神会長より日中医学協会への寄付金について国際女医学会記念事業基金より支出する旨の報告あり。

承認

司会者より閉会を宣し終了。

午後零時十分閉会。

議事録が正確であることを証するため議長および議事録署名人の署名捺印をする。

昭和六十年五月二十六日

議長 長池 博子

議事録署名人 中山 年子

議事録署名人 桂 敦子

理事会議事録

日時 昭和60年3月23日

場所 日本女医学会 会議室

出席者(敬称略)

三神、小俣、福永、山崎、久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、丸山、森川、八木、柳瀬、明石、荒木、石川、石原、井上、鶴川、川口、川島、関口、野呂、蓮井、

議事

一、昭和五十九年度一般会計収支現計書および昭和六十年年度予算案について

別紙現計書および予算案について検討する。
新設科目の荻野吟子賞の経費については、一般会計から支出し今後は募金活動をしなす。

二、昭和六十年総会について

役員選挙開票については、正確さと時間短縮のためコンピュータを導入する。
総会出席者に記念品を贈呈する。
品物については、種々検討の結果、ポストスケール(郵便料金計)、風呂敷等。

総会次第について

会長挨拶

物故者への黙禱

選挙管理委員選出

役員立候補者発表および選挙方法説明

選挙報告

(1)会務報告および事業報告

(2)昭和五十九年度特別会計報告

(3)国際連絡書記報告

議長団選出

議事録署名人選出

議事

表彰

(1)学術研究助成金授与

(2)吉岡弥生賞

選挙結果発表

新理事の互選による会長、副会

藤井、藤田、三好、森、山本、添田、西山、山口

欠席者(敬称略)

稲葉、平瀬、鈴木、町田、マツキ

理事会開催に際し来訪あり

一、全国女子医学生友の会より支援の札と今後アンケート調査を依頼の節は、ぜひお願いしたいとの挨拶あり。

二、警道顕彰会より京都市東山区に醫聖堂を建立した意義と入会のお勧めあり

庶務報告 久保田常任理事

2月23日 吉岡弥生賞審査会および常任理事会開催

3月19日 広報部会開催

その他

(1)日本国際医学生連盟(JIMS A)より補助金の礼状と報告書あり。

(2)故上田はる先生ご遺族より香典の礼状あり。

(3)故仁木喜代子先生ご遺族より香典の礼状と供養の品あり。

連絡事項

(1)労働省より「国連婦人の十年」に関する活動事例および意見募集について

応募資格 十八歳以上の男女

応募締切 昭和六十年三月二十

五日

石川理事

承認

二月分紙どおり報告

承認

長、常任理事の選出  
閉会の辞

昭和六十一年総会開催地について  
東京支部連合会が開催を引き受けてくれることに決定。  
昭和六十二年総会開催地について  
大阪支部へ開催を依頼する。

津村順天堂茨城工場と科学博見学について  
津村順天堂の好意により総会翌日京王プラザホテル前より往復バスにて津村順天堂茨城工場と科学博見学を昼食つき無料にて行なうことを会員へ知らせる。

詳細は庶務部で検討する。  
右記とは別に科学博見学貸切バスを検討してみる。

三、その他

(1)吉岡弥生賞授賞について  
応募者四名について審査の結果、社会に貢献した会員として左記二名を決定する。

松山京子（宮城支部、東女医、

自宅で郵便料金がわかる  
ポストスケールはいかがですか！

先日、東京で開催された総会に記念として出席者にさし上げましたポストスケールが好評です。残品がありますので希望者には一個五百四十円（実費）でお送りいたしますので事務局までお申し出ください。

（送料別）

昭五五年卒）  
若林静子（神奈川支部、東女医、昭二年卒）

(2)国際女医学会について  
西太平洋地区副会長候補に山崎倫子先生を推薦する。

(3)学術部に関して  
学術部事業として吉岡弥生賞に關しての事業が報告されているが、今後学術部事業としない。

昭和六十年学術研修会は昭和六十年十一月三十日（土）京王プラザホテルにて開催予定。  
(4)日本病院ボランティア協会より賛助会費納入依頼について  
三口として九千円納入するとする。

以上 久保田くら  
野沢 良美

理事会議事録

日時 昭和60年 4月20日

場所 日本女医学会 会議室

出席者（敬称略）

三神、小俣、福永、久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、丸山、八木、明石、荒木、石川、石原、井上、鶴川、川口、鈴木、関口、野呂、藤井、藤田、三好、山本、添田、西山、山口  
欠席者（敬称略）  
山崎、稲葉、平瀬、森川、柳瀬、川島、蓮井、町田、マッキンストリ、森

庶務報告

久保田常任理事

3月23日 学術部会、理事会および会計部会開催。

3月26日 日中医学協会募金委員会（三神会長、丸山常任理事出席）

4月7日 醫道顕彰会主催による故武見太郎先生彫像除幕式並びに記念講演会へ三神会長、小俣副会長、久保田常任理事および添田監事出席。

4月10日 庶務部会開催  
外務省国際連合局主催による人権問題に関する講演会に山崎副会長出席。

4月12日 広報部会開催  
その他  
(1)吉岡弥生賞授賞通知に対し若林静子先生、松山京子先生初め関係者より礼状あり。  
(2)故宮田芳子先生、故片岡慈子先生ご遺族より香典の礼状あり。

連絡事項

(1)第十回日本婦人問題会議について

とき 昭和六十年五月三十一日  
午前十時～午後四時  
ところ 日経ホール（東京）  
主催 労働省  
講演 「国際婦人の十年」最終年にあたって

(2)一九八六年第十四回CWAJ海外留學奨学生募集要項について  
募集人員 三名  
支給額 各三百万円

期間 一九八六年九月より一年間

資格 国内の四年生大学を一九八四年六月までに卒業し、現在国内に在住する日本女性。

締切 昭和六十年九月十四日  
三神会長より四月七日故武見太郎先生彫像除幕式および講演会へ出席した報告あり。

議事  
一、定時総会について  
(1)会務報告について  
別紙資料にもとづき検討する。  
(2)選挙について  
日本システムデイベロップメント(株)に選挙開票をねがう。  
費用は、投票用紙など諸経費を含み四十九万円を要す。  
選出方法と定員について

選出方法 定員備考  
理事 10名連記 35名 上位得票順  
監事 1名単記 3名  
会長 1名単記 1名 理事会の互選 上位得票順  
副会長 3名連記 3名  
常任理事 6名連記 12名  
再選 1名単記 上位得票順

総会および理事会において支部長と役員（理事、監事）を兼任することに種々検討してきたが、再度兼任できない旨を再確認する。今回役員立候補者で兼任の方へその旨通知する。  
選挙管理委員の依頼者を下記の

とおり選出する。  
岸よし（山形支部）、長池博子（宮城支部）青井禮子（葛飾支部）、脇田昌子（渋谷支部）倉島操子（中野支部）、清水五百子（都下東部支部）、中浜昌子（神奈川支部）、野崎美千子（大阪5支部）中西幸子（京都支部）、後藤すみ子（長崎支部）

(3)議題および次第について  
日本女医学会定時評議員会次第  
司会 明石 み代  
会長挨拶 三神 美和  
報告

一、会務報告および事業報告  
二、昭和五十九年度特別会計報告  
吉岡弥生賞基金 石川 文子  
国際女医学会記念事業基金  
年 金  
ルーペンゲン

議長選出  
議事録署名人選出  
議事  
第一号議案  
一、昭和五十九年度一般会計収支決算  
佐藤千代子  
二、剰余金処分案  
佐藤千代子  
第二号議案  
昭和六十年事業計画案  
山口 三重

庶務部 荒木 律子  
学術部 橋本 葉子  
事業部 石原 幸子  
渉外部 鈴木 文子

広報部 井上 柳子

第三号議案 昭和三十九年度一般会計収支予算案

第四号議案 次期および次々期総会開催地について

第三十回日本女医学会定時総会次第

会長挨拶 久保田くら 三神 美和

物故者への黙禱 選挙管理委員選出 役員立候補者発表および選挙方法説明

報告 一、会務報告および事業報告

二、昭和五十九年度特別会計報告

吉岡弥生賞基金 国際女医学会記念事業基金

年 金 ルーペンゲン

三、国際連絡書記報告 山崎 倫子

お願い

会員名簿作成のため、住所、電話番号の変更または改姓等がありましたら、九月十日までにハガキで事務局にお知らせください。

議事

第一号議案

一、昭和五十九年度一般会計収支決算

二、剰余金処分案

第三号議案 昭和三十九年度事業計画案

第四号議案 次期および次々期総会開催地について

表彰 一、学術研究助成金授与

二、吉岡弥生賞 役員選挙結果発表

新理事の互選による会長、副会長、常任理事の選出

閉会の辞

(4)記念品について

その他

(1)都下支部より支部二分希望の申請について

(2)警道顕彰会より当会会員名簿の購入依頼について

五千円で販売する。

(3)昭和六十二年総会開催地について

(4)津村順天堂茨城工場見学について

以上 久保田くら 野沢 良美

会員動静

入会会員(敬称略)

岩手支部 水野綾子(東女医)

埼玉支部 原 まさ子(慶応大)

豊島支部 山下知子(東女医)

中野支部 鶴岡康子(東邦医)

練馬支部 岩崎節子(東邦医)

神奈川支部 加藤佑子(東邦医)

新卒入会会員(敬称略)

学術講演研修会のご案内

昭和60年11月30日(土曜日) 15時より

特別講演 「宇宙医学の現状」

吉岡賞受賞講演 16時10分より

懇親会 17時30分より



集記

長く続いた梅雨空も晴れ、会誌第百三号が完成して発送されるころは入道雲も顔を出し、若者の季節、真夏を迎えていることでしょうか。

十八年の長い歳月を通して、見事に日本女医学会を今日までに育まれた三神会長のご功績には、ただただ尊敬と感謝の他はありません。

今回は新会長山崎倫子先生をお迎えし、また多数の新理事も加わって、執行部は成立されました。当誌は、会長のご挨拶につづき各部担当の常任理事からはそれぞれの抱負を

いただいたき、読者の皆様には力溢れる執行部の姿をご覧いただけたいと存じます。この日本女医学会の姿をご覧になれなかった柳瀬路子前常任理事の突然のご他界は、まことに悲しいお報せになってしまいました。

会誌は日本女医学会の正面像を反映するスクリーンともなることとて、その企画・編集に当たっては責任の重大さを痛感しています。一年に四

回、すなわち一月、四月、七月、十月の各月二十五日がその発行予定になっております(役員改選期の七月発行分については約一カ月遅れになります)したがって原稿締め切りはその前月十五日を厳則としておりますので、原稿をご依頼いただきました節は、よろしくご協力いただきますようお願い申し上げます。

支部のコーナーや会員の消息欄へのご投稿についてはご遠慮なくご一報いただきますようお願いしております。最後にご多忙の中、玉稿を賜わりました諸先生方に厚くお礼申し上げます。(広報部)

昭和60年8月20日 印刷  
昭和60年8月25日 発行  
編集人 八木 貞子  
発行人 日本女医学会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-17 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医学会  
TEL(498)〇五七-  
制作 東京都文京区水道1-5-16(85)六四一五  
株式会社 金剛出版